



布施だより

《 '銀河' の中に生きづく心 》



〈 生徒総会にて 〉



〈 職員室での新役員紹介にて 〉

◇中庭コンサートがとても充実していたので、来年も頑張ってください。

◇学級新聞がとてもよくできていたので、ビーナスホールに飾るなどして、全校のみんなに見てもらえるようにしてください。ご苦労様でした。

◇「20日間チャレンジ」は凡事徹底推進のためにも充実した活動でした。来年も続けてください。1年間、お疲れ様でした。

◇「ありがとう運動・笑顔プロジェクト」がとても良かったです。お疲れ様でした。

◇購買の接客の態度がとっても良くて気持ちよかったです。ありがとうございました。

◇ミュージックスクエア等、楽しい放送、1年間本当にご苦労様でした。

と、12月15日(火)に行われた「生徒総会」では50代生徒会へのねぎらいの言葉と想いが交流し合う時間が流れました。もしかしたら、この「お疲れ様！よくやってくれた！」の言葉に込められた感謝の想いを伝えるために、多くの生徒がマイクの前に立ってくれたんじゃないだろうかという思いにさせられるほどでした。(それは3年生みんなへの感謝の言葉でした。)生徒たちは、生徒会活動に少しでも新しい趣向を取り入れようと背伸びします。実際にはイメージしたようにはいかないのだけれど、1年間誠実に取り組んでくれたわずかな変化(けれど着実な成長)を生徒は認め、そのことを第51代につなげていってほしいと願います。1年前に創り出してくれたく Legend ~

新たなる伝説を魅せる刻～)のローガンは、1年後のこのバトンタッチを予感したかのような言葉でした。

毎日給食を終え、食器をコンテナ室に返却に行くと、みんなの返却を見守っている給食委員の生徒がスッと近づいてきて、「やります!」と言って、奪うように(*^o^*)して、食器を片付けてくれます。自転車管理のために、昼休みの時間を削って駐輪場で自転車の鍵の確認をしてくれる校外風紀委員の諸君がいます。等々・・・日常の当番活動に意識を高め、自分の時間を少しずつ削って協力し、「献身」を差し出すことでより節度のあるしっとりとした生活につながってくれています。

温かい拍手で締めくくられた総会議事の最後には、第51代生徒会新役員が力強く紹介されました。

「銀河の中に生きづく心」で歌い始める生徒会歌は「篠ノ井の地に生きづく我ら緑の生徒会」で歌い終わります。冬の大地の下には、来春芽吹こうとしている緑の新芽がたくさんたくさん準備されています。



長野市教育委員会から「長野市活用問題調査の実施」のお知らせがきています。本校では1月8日(金)に中学校2年生を対象に行います。よろしくお願ひいたします。

保護者様

平成27年12月22日

長野市教育委員会

平成27年度長野市活用問題調査の実施について(お知らせ)

師走の候、保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、中学校の教育にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

長野市教育委員会では、子どもたちが自立した18歳を目指し、グローバルな視野を持ちながら、ローカルに生きる力を身につけ、自らの進路を切り拓く力を高めていくためのプラン「しなのきプラン29」を策定し、学力向上の取組を進めております。長野市の児童生徒の学力の課題である「活用する力」の育成に焦点をあてた長野市活用問題調査を下記のように実施しますので、お知らせいたします。

記

- 1 調査名 平成27年度長野市活用問題調査
- 2 実施期日 平成28年1月8日(金)
- 3 調査の目的 本市の学力の課題である「活用する力」の育成の観点から、中学生の学力状況を把握し、「活用する力」の育成に向けた指導の充実や授業改善等に役立てる。
- 4 対象学年 中学校2年生全員
- 5 教科 国語・数学・理科
- 6 その他 本調査に係る費用は、長野市教育委員会が負担します。

【問合せ先】

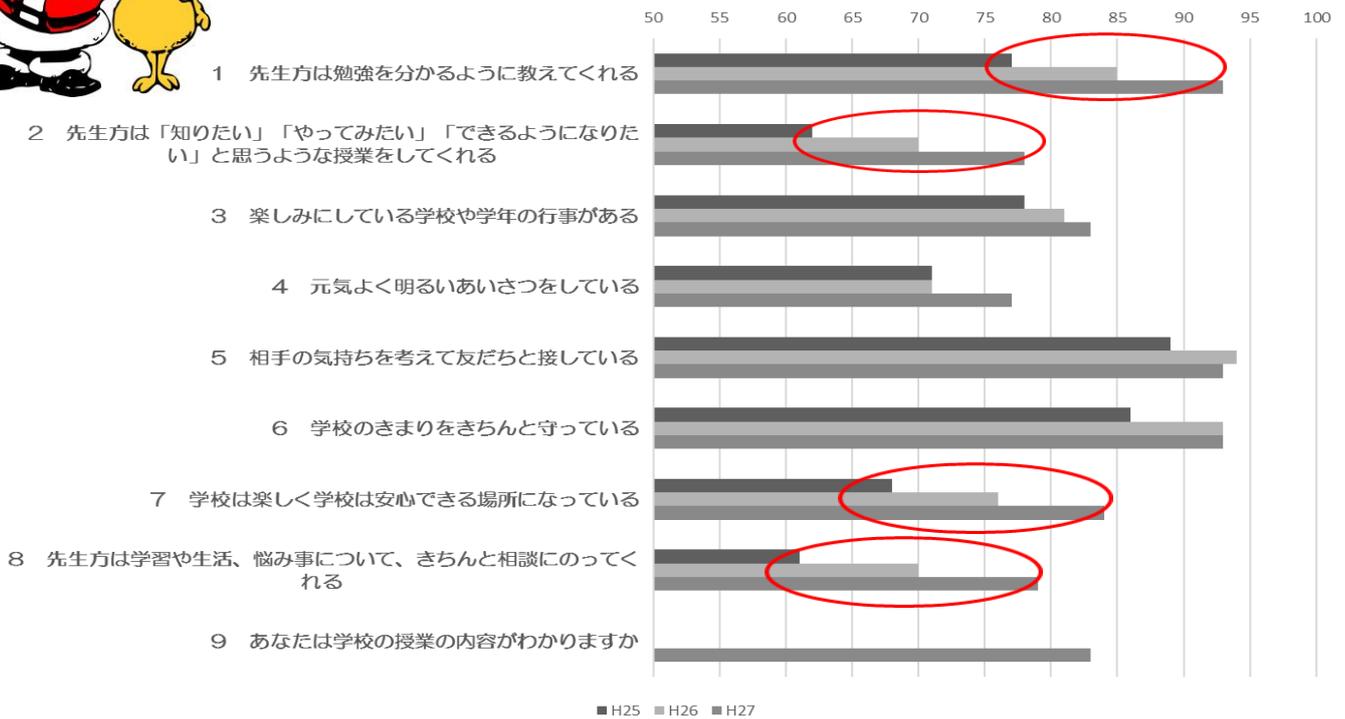
長野市教育委員会 学校教育課
電話 224-5063
FAX 224-5086





《 平成 28 年度が始まります。 》

生徒アンケート肯定的回答の割合の推移



10 月末の保護者アンケート「より良い学校を目指し、連携と協力を生み出すために」へのご協力ありがとうございました。(分析・考察をし、年明けにアンケートをまとめたものをお伝えいたします。)同時期に生徒諸君にも「生徒アンケート」を行いました。その概略(上記グラフ)をお伝えします。過去2年間の推移を見てみると、顕著に表れてきたのが以下の点です。

- ◇ 「1 先生方は勉強を分かるように教えてくれる。」 **77%→85%→93%**
- ◇ 「2 ヲ 知りたい・やってみたい・できるようになりたいと思うような授業をしてくれる。」 **62%→70%→78%**
- ◇ 「7 学校は楽しく、安心できる場所になっている。」 **68%→76%→84%**
- ◇ 「8 先生方は学習や生活、悩み事について、きちんと相談にのってくれる。」 **61%→70%→79%**

「基礎・基本の学力の確かな定着と『活用する力』の向上」を学校ランドデザインの柱に据え〈聴くこと・授業のチャイムスタート・書くこと〉をベースにした「基本的学習習慣の確立」と説明する活動を視点にした教科会による「授業改善」を私たち自身の課題として取り組んできたことが、少なからず生徒諸君の追究や要望に活かされてきていることを示しています。また私たち自身の1年間を見返すアンケートにも、このことを裏付けるように次のような振り返りがなされました。

- ◇チャイムスタートが意識され、学校全体で定着し、授業が落ち着いてスタートできています。私たち自身もチャイムスタートを徹底できるようになり、緊張感の中で追究が始められています。
- ◇凡事徹底により、生徒と私たちがみんなで一緒に根気よく毎日の授業をより良くしようとしてい

ます。

◇西中の生徒は好奇心が旺盛で知りたいと思う気持ちが多い生徒がたくさんいるので、その気持ちをこれからも授業の中に生かし、応えていこうと考えています。 等々



授業をより追究力のある、ワクワクドキドキしたものに、一緒に創り上げることが私たちと生徒諸君の重なる願いです。生徒諸君のアンケート結果から見えてきた私たちへの期待度をしっかりと受け止め、信頼感を着実に培いながら、私たち自身が生徒諸君と彼らの成長を我がことのように喜びあえる、そんな毎日をこれからも共に創り上げていきたいと強く願っています。

年が明けた1月からは「平成28年度 学校運営教育課程検討委員会」が始まります。◇西中学校グランドデザインの検討 ◇年間計画の検討 ◇基礎・基本の確かな定着と更なる「活用する力」の向上に向けて ◇生徒会活動51年目に向けて 等の検討グループに分かれ、生徒たちにとって成就感や達成感のある追究や活動について検討を重ねていきます。保護者の皆様と生徒諸君のアンケートにきちんと耳を傾け、より良い学校運営を実現しようと、私たち自身の追究の機会になります。

～ ～ ～ ～ ～
ちょうど十年前の冬、新聞に掲載された作家 瀬戸内寂聴さんの『雪の中の若者たち～愛することを伝えたい～』を読み返していました。

く 雪の中を北海道余市の高校(当時、過疎化で生徒が減り、廃校間近であった高校を町ぐるみで協力し、下宿の面倒も見、高校中退者を積極的に受け入れていた北星学園余市高等学校です。参議員の義家弘介さんの母校ですね。)の40周年記念講演会に出掛けた。…セレモニーは滞りなく進んでいった。私は学校に入り、擦れ違う生徒たちから次々礼儀正しいお辞儀をされたことにまず驚いた。彼らは真っ直ぐ、私の目を見つめて頭を下げしてくれる。私は迂闊にもこの学校がキリスト教の精神で支えられていたとは知らなかった。白い校舎の上の小さな十字架を仰いだとき、初めて様々な胸の疑問が一挙に解けた。挫折し傷心を抱いてこの町に向かった少年少女を熱い心で抱きしめたのは、この町の、この学校の大人であった。つまるところ教育とはそれしかない私は信じている。熱い心で抱きしめることで相手の悲しみや苦しみも、胸から胸へ伝わってきて、言葉はいらなくなる。相手の心を開かせないで、何の教育ができるというのだろうか。

私は40分ほど話をした後で、生徒たちとの質疑応答に切り替えた。私の話に目を輝かせて身を乗り出すようにして耳を傾けてくれる彼らを見ていたら、もっと彼らと直接話したいという想いが込みあげてきたからだ。予想通り、彼らは次々手を挙げ、質問してくれた。「自分の弱さをどうやって克服できるのだろうか。」「将来の目的がまだつかめていない。その焦りをどうしたらいいのか。」「みんな真剣に私を見つめている。

私はひとりひとりに私の今の想いを伝えた。私が彼らを文句なく好きになったように、私もまた彼らに受け入れられているという手応えを感じていた。生きることは愛することだ。人は愛するためにこの世に生まれたのだ。自分に誇りをもて!と私は声を大きくしていた。>

2015年が年の瀬を迎えようとしています。家庭に帰って家族の皆さんの中で、じっくり、ぼんやり考える時間を生徒たちが年末・年始にもてるよう、そうしてたっぷり豊かな滋養が体と心に身につく、また新しい年に向かっていけるよう願っています。

健康で安全な年末年始休業になるよう、よろしくお願いいたします。

1年間、ご理解とご協力を賜り本当にありがとうございました。来る1年もよろしくお願いいたします。

良きお年をお迎えください。

(*12月29日(火)～1月3日(日)の期間、学校無人化とさせていただきます。
ご連絡、ご相談等は担任・学年職員へお願いいたします。)

